

日米首脳 会談

異常なトランプ政権への 追隨でいいのか

共産党・小池書記局長が指摘

日本共産党の小池晃書記局長は2月13日、国会内で記者会見し、トランプ米大統領との日米首脳会談に臨んだ安倍晋三首相の姿勢について「異常なトランプ追隨を際立たせた」と批判し、「危険で異常なトランプ政権につき従う思考停止の対米追隨姿勢を、これからも続けるのかということを正面から批判していきたい」と述べました。



入国禁止令は国際問題、人権問題。なぜコメントしない

小池氏は、今回の会談を受けて「アメリカファースト（第一）」と「日米同盟ファースト」という“最悪の組み合わせ”が「まさに現実のものになりつつある」と指摘。中東・アフリカ7カ国からの入国禁止令に米国内をはじめ全世界から厳しい批判が上がるなか、安倍首相が共同会見で直接問われてもいないのに「内政問題なのでコメントは差し控えたい」と述べたことについて、小池氏は「これは内政問題ではなく国際問題、人権問題であり、当然コメントすべきだ。だからこそヨーロッパ各国首脳も批判的な立場を明らかにしている。（首相は）異常な姿勢を示した」と批判しました。

これまでにない危険性、異常性をもつトランプ政権

日米首脳会談内容に関して、沖縄での米軍新基地建設押し付けや安保法制＝戦争法の具体化

に加え、核兵器禁止条約の世界の流れに背を向け、2国間協議で日本の経済主権・食糧主権を脅かすといった問題があると指摘。「そのうえトランプ政権は（入国禁止令にみられる）排外主義という、これまでのアメリカの政権にもなかった危険性、異常性がある」と強調しました。

異常なトランプ政権につき従う政治でいいのか、問われる

その上で小池氏は、「アメリカに対する見方はいろいろあると思うが、トランプ政権にここまでためらいなくついていくことで本当にいいのだろうかという声は、多くの市民から上がってくると思う」と指摘。日本共産党としてはアメリカへの従属体制の根本にある日米安保条約を廃棄して、対等・平等・友好の日米関係に進むべきだと主張していくとともに、「従来のアメリカにもなかったような異常な政権につき従っていく政治でいいのかということを、幅広い国民に訴えていきたい」と語りました。

動画でも見られます→



アメリカいいなり政治から脱却を!!

トランプ政権への追隨ぶりが際立つ安倍政権。アメリカいいなりの根っこにある日米安保条約を廃棄して、対等・平等・友好の日米関係に転換することが必要です。そのために全力をあげます。



参議院議員（東京選挙区選出）
弁護士
やまぞえ・たく

山 添 拓

日本共産党



ご意見・ご要望は 03-3370-0311、FAX 03-3370-0471

2017年2月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行/東京民報社（港区芝1-4-9 平和会館5階）1965年11月12日第三種郵便物認可